

9 会派が並行在来線存続で市長に要請



完成間近の高田小町を視察

日本共産党市議団はこのほど大町の町屋を使った市民交流施設・高田小町を見てきました。

木のむくもりがあって、何となく懐かしさも感じる建物になって、3人で「いいねえ」。大いに利用してほしいですね。

日本共産党上越市議員団ニュース

9 5 2007年6月10日
 連絡先 杉本敏宏 5 2 4 - 3 7 8 7 (東本町5)
 樋口良子 5 4 4 - 6 8 0 2 (中門前3)
 橋爪法一 5 4 8 - 3 6 2 8 (吉川区代石)
 事務局長 上野公悦 5 3 0 - 2 2 0 3 (頸城区中柳町)

会派「毘風」が並行在来線問題で市長に提案した「提案書」は大きな波紋を呼んでいます。現職の代議士が「在来線廃止を決議した市議会がある」と誤った認識ではありますが、この会派の提案に触れる、妙高市の議会で質問が相次ぐ、地元紙に投書が載る、などの動きが出ています。また市民の間でも、「この提案で議会も廃止に向かうのではないか」などといった疑問や不安の声が広がっています。

こうしたなか5日、「毘風」をのぞく9つの会派(市民クラブ、政新、創風クラブ、市政会議、日本共産党議員団、自民クラブ、公明党、無所属、無所属の会)37人が木浦市長に対して「並行在来線存続を求める要請」を行いました。市長は、「しっかりと受けとめる」とこれまで同様、存続を求めていく方針であることを明らかにしました。

市議会では、並行在来線問題で市議会としての意思を内外に示すべきだとの声が多く、今後、新たな展開も予想されます。要請文の大意は以下の通りです。なお、日本共産党議員団は、一般質問などで存続の立場から様々な提案を行ってきています。

【並行在来線存続を求める要請】

上越市・上越市議会はこれまで、並行在来線の存続を前提に活用方法を含めてまちづくりにどう生かすかなど議論をすすめてきた。新幹線開業後も並行在来線を存続させることは地域住民の切実な願い。上越市のまちづくりに欠かすことのできないインフラでもある。市長は、新潟県と地元市町村との確認書を守ることの重要性を強調し、県が責任を持って並行在来線の存続を図ること、地元自治体は財政の許す範囲で負担することを強く主張してきた。いまこそ上越市は、この主張、並行在来線の存続に全力を注ぐことをいっそう鮮明にする必要がある。私たち9会派37名の議員は、これまで行政と議会、それに住民、他市町村との間に築いてきた信頼関係を損なうことなく、並行在来線の存続に向けて行動していくことを確認した。市長としても並行在来線存続の意思を明確にし、あらゆる手立てをとられるよう要請する。



党議員団の一般質問

樋口良子議員(13日)

1 最終処分場適地選定調査業務委託の調査結果について

(最終処分場の建設に支障となる動植物の生息は確認されなかったとあるが、調査の内容はどうか。この調査結果を公表し、かつ地元の専門家による検証が必要だと思いがどうかなど)

2 日本青年会議所制作のアニメについて

(中学生向けに制作したDVD「誇り」の内容について、どう認識しているかなど)

杉本敏宏議員(13日か14日)

1 首相の「美しい国」について

(安倍首相は、戦後レジーム(体制)からの脱却といい、過去の戦争をした日本の国家と社会を「美しい国」「日本の美しい伝統の国柄」だったとして、そこへ戻ることを主張しているが、戦後レジームのもとにある地方自治体の長として、どう考えるかなど)

2 旧上越市への地域協議会の導入について

橋爪法一議員(14日か15日)

1 市道の維持管理について

2 保育園と住民サービスについて(通園バス制度の統一についての保護者説明会の総括。アンケート調査も実施し、関係者の意思、保育サービスへのニーズを把握すべきではないかなど)

3 文化財の保護と活用について

4 福祉分野に就業している人たちの労働実態について(福祉分野の労働条件は、低賃金、人手不足、過密労働などと聞くが、市内の民間福祉施設等の労働実態について把握しているか。福祉分野における人材確保策として、賃金などの労働条件は、「福祉の仕事に携わる公務員と同等の水準を保障すること」を目指し、国に対して特別な財政支援措置を求めることが必要ではないか)